

令和7年度
すくわくプログラム活動報告書

(実施対象：4・5歳児クラス)

モニカ矢口渡園

M  nica

テーマ

自分と植物の共存、自分と植物の関係性

設定理由

戸外に出た際に、タンポポやツツジなどの植物を見つけると友だちと一緒に観察や収集をし、園で図鑑を広げて調べている姿から興味や関心を持っていた。また、野菜の栽培をし始めたことで、様々な植物や天気などにもついでに会話も聞かれるようになった。身近にある植物や木を探究していくことで、関係性を深めていきたいと考えた。

野菜の栽培をできる屋上やご近所に畑がありその方とも交流を深めている。公園や神社など自然が多くあるので、その環境を活かせると思う。

対象クラス

4・5歳児クラス 18名

活動のねらい

観察やお世話を通して愛着や関心を育む。子ども達の気づきを深めていくことで、植物の気持ちや自分たちとの関係性への想像や意識を表現する。

問 い

「どんなふう変わった」「前と何が違う」「木について教えてくれる」どんな気持ちかな」

活動期間

令和7年7月～12月

活動回数

計4回

活動概要

子ども達と相談し育てたい植物を決め育てていく中で、観察やお世話を通して愛着や関心を育んでいく。また子ども達の気づきを深めていくことで、植物の気持ちや自分たちとの関係性への想像や意識を表現していく。

環境のデザイン

さまざまなハーブや植物の栽培(ハーブ4種類、鉢植え、土)：トレース台 | マイクロスコープ
近隣の神社にて絵を描く：画用紙 | ペン | パレット絵の具 | 筆 | レジャーシート
水 | 容器 | 板 | クリップ 他

実践・記録

- 植物の栽培
- 拡大鏡やトレース台を使用し観察や描画
- 木の描画やプロジェクターでの投影を通して表現活動など
- それぞれの気づきの発表など
- 写真や動画を撮影
- 子どもの言葉や気づきを記録
- 描いた作品

共有

- 撮影した物や記録を使用しドキュメンテーションや掲示の作成をする。
- 子ども同士描いた絵や気づきを自身が話していくことで、共有していく。

4 歳児・5 歳児探究活動

【対象クラス・人数】

4・5 歳児 11 名（4 歳児）8 名（5 歳児）

【テーマ】

自分と植物の共存、自分と植物の関係性

【テーマを設定した理由】（子どもの姿や興味関心、テーマ設定にあたって活かした園の強みや環境など）

戸外に出た際に、タンポポやツツジなどの植物を見つけると友だちと一緒に観察や収集をし、園で図鑑を広げて調べている姿から興味や関心を持っていた。

また、野菜の栽培をし始めたことで、様々な植物や天気などにもついでに会話も聞かれるようになった。身近にある植物や木を探究していくことで、関係性を深めていきたいと考えた。

野菜の栽培をできる屋上やご近所に畑がありその方とも交流を深めている。公園や神社など自然が多くあるので、その環境を活かせる考える。

【ねらい】

- ・観察やお世話を通して愛着や関心を育む。
- ・子ども達の気づきを深めていくことで、植物の気持ちや自分たちとの関係性への想像や意識を表現する。

【キーとなる問い】

どんなふうが変わった 前と何が違う 木について教えてくれる どんな気持ちかな

【活動スケジュール】

令和7年7月～令和7年12月

プロジェクト保育第一回

実施日：令和7年7月17日（観察して描く）7月18日（共有）

○全体のテーマ

- ・自分と植物の共存

○ねらい

- ・植物の観察を通して触れ、興味を持って気付きや思いを表現する。
- ・発見や思いを友だちと共有する中で、他児の思いや発見を知る。

○問い

- ・何が見える？
- ・どう思う？

○活動内容

3歳児保育室を使う

○グループ構成

4～5名の小グループ（状況に応じて変更有）

○準備物

バジル4株、虫眼鏡、鉛筆、消しゴム

○配慮

- ・子どもたちの気づきに耳を傾け、一緒に気持ちを共有する。
- ・描くことに失敗はないことを伝え、自由に表現できるようにする。
- ・観察はグループで行い、描くときは広いスペースを用意して一人ずつ描けるようにする。

●虫眼鏡を使って

4株の中から好きなものを選び、観察をする。

葉っぱの数が少ないものを選ぶ子、葉っぱが大きいものを選ぶ子と様々だった。

虫メガネを通してしてみると「おっきくみえる」「ここってこうなっていたんだ」と新しい発見があった。虫眼鏡を通して見るのと直接見るのでは違って見え、不思議そうにしていた。



●葉脈や葉っぱの窪みなどに気付く

じっくり見ていくと「ここぼこってなってる」と言い、茎と葉っぱの間の窪みに気付いたり「はっぱのなかに せんがあるよ」と葉脈に気付いたりする子がいた。

「このせんって なんのためにあるの？」

「せんからせんができているね」

「ちいさいはっぱにも せんがあるよ」

様々な気づきがあった。



●鉛筆を使って書いてみる

今回は観察して、発見したことを描いてほしい思いから、鉛筆を準備した。

虫眼鏡を通して見た葉っぱの線を描いたり、葉の大きさの違いを描いたりする姿があった。

一回線を引くともう一度観察し、観察するとまた描く。を繰り返し、集中して描いていた。

「せんがたくさんあって むずかしい」「ここすこし ぼこってしているよね…」など、見たものをそのまま描いていた。

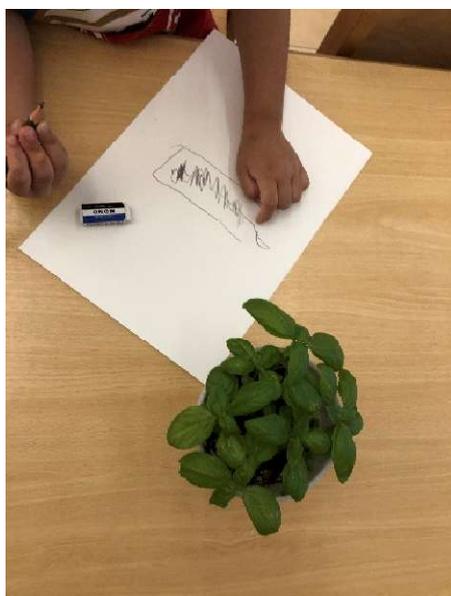


●見たものだけでなく、こうなってほしいという思いも表現する。

「なかはきっと つちがたくさんあって したからもはえてるんだよ。」
見えない部分も想像して描く子がいる。

「つちにはたくさんえいようがあるから ここまでおおきくなったんだね」
と成長したことを嬉しそうに話す子もいた。

「このバジルはこれからもっとおおきくなって はなもさいて ちょうちよもきてくれるとおもうんだ」と花や蝶々を描き、これからの成長を楽しみにしながら描く子もいた。



○描いた作品をを共有する

描いたバジルをみんなにどんな思いで描いたのか、どんな発見があったのかを共有した。

「はっぱがおおきくて かきやすそうだからこれにしたよ」「むしめがねでみると はっぱにせんがあったよ」「はっぱとくきのあいだは ぼこってくぼんでるのをみつけたよ」とどのバジルを描いたのか、虫眼鏡を使って観察をしたことでどんな発見があったのか等、自分の言葉で友だちに伝える姿があった。話を聞く子どもたちは「そんなはっけんがあったんだ」「わたしもそれみたよ」「あとでまたみてみよう」など発表者の言葉を聞いてさらに関心を持つ子もいた。



○考察・振り返り

自分達で世話をして成長したバジルだった為、愛着を持って観察し、描くことが出来たと思う。この活動前に虫眼鏡を使った活動をしていたことで扱い方もわかり、スムーズに進められた。虫眼鏡で拡大して見ると葉脈の線や茎と葉っぱの間のくぼみ、葉っぱの形など細かいところまで見ることができ、子どもたち自身発見できたことに喜びを感じ絵に残す姿が見られた。また、描いた作品を共有したことで、他児の発見やどうしてそのバジルを描いたのかという思いを知ることができ、さらに関心が高まったように見える。

○今後の活動について

今後もバジルは成長していく為、子どもたちと観察を続けていき発見や気づきを共有していく。また、季節が変わっていく中でのバジルの変化にも着目していきたい。観察や描くだけでなく、バジルを摘んで家庭で食べて家族内でもバジルの成長を感じられるようにしていく。

プロジェクト保育第二回

実施日：令和7年10月9、10日（観察）10月16日（共有）

○ねらい

- ・今まで育ててきたバジルに対する思いを友だちと共有する
- ・季節の移り変わりによって、バジルにどのような変化があったのか気付く

○問い

- ・今までとどう違う？
- ・変化をどう思う？

○活動内容

- ・ホールで行う
- ・枯れているバジル、弱っているバジルを机の上に置き、虫眼鏡やマイクロスコープで観察をする。
- ・以前と同じように戸外に置いて水をあげていたが、弱ってきたのはどうしてなのか考える。
- ・枯れてきたことで子どもたち自身の心情の変化、どのような思いがあるか問い、グループごとに共有する。

○グループ構成

4人グループ

（1グループ20分程 状況に応じて変更有）

○準備物

バジル2株、マイクロスコープ、iPad、虫眼鏡、トレース台、白シート、以前のバジルの写真（保育室に掲示しておく）



○配慮

- ・子どもたち自身が考え、自発的に発言できるような声掛けを意識する。
- ・活動に個人差があるため、必要に応じて個別で声掛けをしていく。
- ・バジルが元気だったころの写真を用意し、比較できるようにしたり、その時の思いを思い出せるようにしたりしていく。
- ・事前にマイクロスコープを室内で扱う機会を設け、スコープに意識が向かないように配慮する。

●太陽

「太陽の光があたってなかったのかも」
「置く場所が悪かったんじゃないかな」
そうつぶやくと、窓辺に手をあげ一番暖かく、
太陽の日が当たる場所を探し始める。
窓際に鉢を運び、
「ここに置いておけばまた元気になるかな」
期待を込めて太陽の光に当てていた。



●光に当て観察する

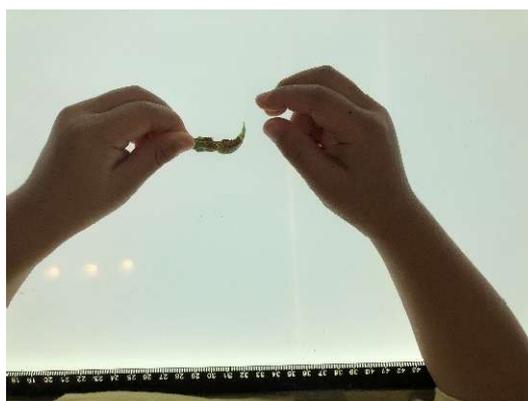
葉を取り、トレースタに乗せて光で透かしてみる。

枯れた葉には、「線があんまりない」

「しわしわしてる」

元気な葉には、「線がたくさん見える、迷路みたい」

肉眼やマイクロスコープとまた違った見え方に驚き、下から葉脈がくっきりと浮かびあがる様子を見ながら、「水の通り道かな」と、指で葉脈の上をなぞり原因を考えていた。



●心情(自分に置き換えてみる)

「元気がない」

「かわいそう、悲しそう」

植物を自分に重ね合わせ、思いを語る子どもたち。

枯れた葉を見ながら、

「しわしわしてるから、おじいちゃんみたい！」

「こっちは67歳くらいかな、元気なさそう…」

一方、元気な葉を見て、

「ばばと同じくらいの年齢かな」

「だいたい35歳くらい！」

植物の気持ちやイメージを持ちながら、友だちと考えを共有していた。

○振り返り

今回行った二つのバジル観察を通して、子どもたちが「土の状態」や「葉の様子」「植物の元気さ」などをそれぞれ関連させながら、自分なりに考えたり、試したりする姿が見られた。「虫が栄養を食べたかも」「水や太陽が足りないから枯れちゃったのかも」など一つの原因にとどまらず、複数の視点を結びつけて比較する思考が生まれていた。また、「元気がなくて寂しそう」「悲しい」と自分の気持ちに置き換えて会話する姿を見て、植物に対して寄り添う姿勢も育まれていると考えた。

さらに、顕微鏡やトレーシング台、虫眼鏡などのツールを使用し観察したことで、同じ葉でも見え方が違うことに子どもたち自身が気が付き、興味を広げていた。

今後の活動について

変化する姿から成長の流れにも気が付き始める姿が見られたため、発芽、成長、変化、枯れるといった植物の一連のサイクルを実際の変化を通して見守る経験にも繋げていきたい。その過程や世話をしていく中で「どうしたら元気でいられるのか」と考える思考が育まれていくと考える。

バジルが木質化したことにも興味をもつ姿もあり、戸外に行った際にも枝を拾い観察する姿が見られている為「木」にも触れていきたいと考えている。

プロジェクト保育第三回

実施日：令和7年11月17日、21日

○全体のテーマ

自分と植物の共存

○ねらい

- ・季節による変化(落葉、木枝など)に気付き、自然の仕組みに興味をもつ
- ・選んだ木について、自分なりに観察や描画を行う中で、特徴に気が付く

○問い

- ・木について教えてくれる？
- ・どんなところが気になった？

○活動内容

- ・安方神社で行う
- ・子どもたちが自由に木を選び、触れる(虫眼鏡や図鑑も使用し、自分なりに観察する)
- ・描きたい木を選び、サインペンを使って画用紙(A4)に描画する。
(個人に応じて、選んだ木の写真を撮り、後日描く)

○グループ構成

少人数で行う 2~4人程度

○準備物

画用紙(A4サイズ)、油性サインペン、アクリル板、洗濯バサミ(紙を押さえる用)
レジャーシート、虫眼鏡、図鑑、カメラ、安方神社の木の写真(保育室に掲示しておく)

○配慮

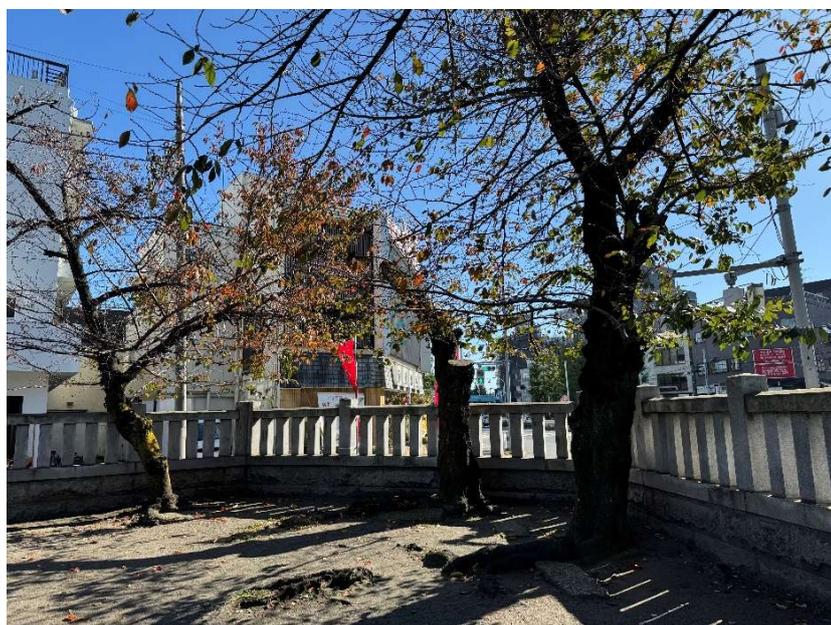
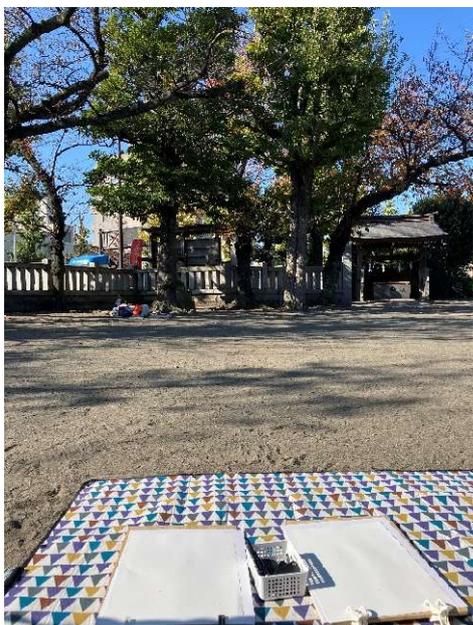
- ・子どもたち自身が考え、自発的に発言できるような声掛けを意識する。
- ・個々の集中に応じて、戸外や室内で選んで描けるよう時間を十分に確保する。
- ・気付きや思いを受けとめ、「木を見てどんなこと思ったかな？」等、探究が広がる言葉を掛ける。

・木に関連したものを保育室内に掲示し、興味を継続できるようにする。

○備考

- ・観察、描画の活動に応じて、個々で集中する時間が違うことが予想される為、状況に応じて、メンバーを交代し室内等でも行えるよう環境を整えておく。
- ・描きたくない子も予想される為、無理に活動に参加させず、木の枝や葉っぱなど木に関するものに興味を示せるよう言葉を掛ける。

環境図：安方神社



いつも遊んでいる安方神社。

「どんな木が生えてるかな？」という
保育者の問いかけから木に視線を向ける。

「このき きになるかも」

「もっとみてみたい」

「さわってみたら どんなかんじなんだろう」

好奇心からそっと木に触れてみる。

●触る

手を伸ばし、木に触れる。

「さわってみたら でこぼこしてた」

「こっちはざらざらしてたよ」

「おもってたより つめたいね」

どんな感触か手のひらや指先で感じる。

様々な木々に触れる中で木によって感触が違うことに気付く。

●虫眼鏡を使い、観察する

見ていくうちに、「むしめがねで もっとみてみたい」「どうなっているのかな」

今度は虫眼鏡を手に取り、レンズ越しから覗いてみる。

「たくさんせんが ながくつながってる！」「きから じゅえきがでてたよ」

「きっと いろんなむしが じゅえきをのみにくるんだよ」「このきのなかには どんなむし
がすんでいるかな」様々な発見をし、木の中の世界を想像する。



●選ぶ

「このき かきたい」

「この ぼこぼこがすきだから これにしたい」

様々な木々の中から心惹かれる木を選ぶ。

何でこの木がいいのか、どこが好きなのか

特徴を捉えながら選んだ理由を友だちに伝える姿も。



●描く

選んだ木の前に座り、見ながらペンを走らせる。

画用紙いっぱいに描く姿や、一つ一つじっくり見ながら丁寧に描く姿が。

「えだ いっぱいはえてるんだね」「ぼこってなってるところ むずかしい」

特徴を捉えながら描いていく。

描いた絵を友だちと見比べてみる。

「どのき かいたの?」「おなじきだ!なかよしのきで かわいいよね」

木から、友だちの会話も広がっていく。



【振り返り】

子どもたちは気になる木に触れる中で、感触を確かめたり、じっくり観察しながら、表面の凹凸に気が付いたり、多様な気づきを得ていた。特に、触った瞬間に「ざらざらしてる」「つめたい」といった言葉が出てきたことから、五感を働かせながら観察をしていた。また、虫眼鏡を使うと、より見える世界が広がり、子どもたちの探求心が高まっていた。「せんがつながってる」「どんな むしがすんでいるのかな」と、木の外側から見ることから、木の中の世界を自分なりに想像していた。そして描く活動では、実際に見た木をじっくりと見つめ、特徴を捉えながら描いていた。

こういった姿から、感じたことを自分なりに言葉や絵で表現する力が育っていると考えた。

友だち同士でも、「なかよしで かわいいきだよね」と会話が生まれ、互いの気づきを伝え合うことで、視野が広がり木に対しての興味や関心が広がっていた。

子どもたちは、「木を見て描く」ことをきっかけに、自然と対話し仲間と繋がり、自分自身の感性を深め、広げていっていた。

今後の活動について

今回の経験から、子どもたちの中では「このき きになる」「もっとしりたい」という思いが芽生え始めている。また、描画する中で、素材(木)そのものの色にも興味をもつ姿が見られ、どんな色をしていたか観察する姿もあった。その為、今回描いたものに絵の具で色付けする活動を考えている。実際に色をのせてみることで木をより身近に感じる事が出来ると考える。

プロジェクト保育第四回

実施日：令和7年12月15日、16日（色塗り）

○全体のテーマ

- ・自分と植物の共存

○ねらい

- ・木の観察や触れ合いを通し、感じたことを表現する。
- ・植物と自分の関係性や気持ちについて考え、色や言葉で表現する。

○問い

- ・どんな気持ちだと思う？
- ・みんなの気持ちを教えて

○活動内容

安方神社に行き、気に入った木や興味を持った木の絵を描いた作品に固形絵の具で色を塗る。

○グループ構成

3人ずつで行う（状況に応じて変更有）

○準備物

固形絵の具、筆、水、カップ、石(紙を抑える為)、板、絵(前回描いたもの使用)、レジャーシート

○配慮

- ・気づきや言葉を拾い、共有することでより興味関心が深まるようにする

○環境構成(安方神社)



「どんないろ してるのかな」「きによって いろがちがうよ」
描いたことで木への興味関心がより深まる。

「はれてるから きもうれしいきもちだよ」「おひさまあびて きもちよさそう」
木の気持ちを考え、友だちにも自分の思いや考えを伝える。

○描いた絵に色をつける

「すこし しろっぽいかも」

「ここは こいちゃいろだ」

木の表面にそっと手を伸ばし、指先で確かめながら、
それぞれが感じたことを言葉にしていく。



筆を手に取り、色を選ぶと描き始める。

「ここはちゃいろだったよ」「うれしいきもちだからきいろもいれよう」

「きだけじゃなくて そらのいろもいれたら もっとうれしいかも」

自分が感じた色や気持ちを思い浮かべながら、何度も色を重ねる。

友だちの絵を覗き込み、「ざらざらしてそう」

「いろんないろがあって いいね」

感じたことを言葉にし、伝える。



【振り返り】

木に触れる活動から取り入れたことで、視覚だけではなく触覚や温度、硬さなど様々な感覚を使って木と向き合う姿が見られた。「つめたい」「ざらざらしてる」など感じたことを自分なりに言葉で表現しようとする姿から、五感を使い、言葉して伝えることが育まれていると考える。

また、同じ木に触れていても、感じ方や注目する姿は一人ひとり異なり、友だちの気づきを聞くことでそれぞれの感じ方や思いなどを受け止める姿がみられた。

色を塗る活動では、触れた経験をもとに色を選び、重ねて塗るなど工夫するなど、イメージを形にしようとしていた。また、感じたことを絵や色で表すことができた。

今後の活動について

イメージを形にしようとする姿や感じたことを表現してみる姿から、今度は、体全体を使って木の気持ちなどを表していけるようにプロジェクターを活用した活動を考えている。また、子どもたちにとって木とはなにか問いながら、木が身近な物であるということに気が付けるようにしていく。環境構成では、木々の世界に入り込めるよう環境を考えていく。

使用物

絵の具（赤・青・黄） | 模造紙 | シャンプーボトル | 食紅(赤・青・黄色) | 水 | 透明なカップ
透明なお皿 | ビン | スプーン | ブルーシート | タオル | 色板 | 絵本『カラーモンスター』
クレヨン | 机 | 椅子

全体の振り返り

テーマ：自分と植物の共存、自分と植物の関係性

探究活動を通して、植物に対して共感的な発言や関わりが増え子どもたちの意識や気持ちの変化が見られた。また、スコープや虫眼鏡のツールを使うことで、子どもたちの興味や想像を刺激したように感じる。グラフィックや観察を通し、自分の考え（想像・期待）や気づきを様々な形で表出することができていた。子ども達の豊かな世界にたくさん触れることができた活動であった。今後も子どもたちの無限の可能性を尊重していきたい。

終



株式会社モニカ

〒105-0004
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

モニカ矢口渡園

〒144-0054
東京都大田区新蒲田2-10-5
TEL:03-6424-5833
FAX:03-6424-5875